

内包・外延の齟齬・調停：時間・意思決定・生命

オーガナイザー： 栗川 知己 （東大総合文化）

講演者： 郡司ペギオ幸夫 （神戸大・理学研究科）

「生命とは何か」という問題はこれを読んでいる人は多かれ少なかれ、みな根底にこの問題意識を持っていると思います。古典物理学をはじめとする多くの科学は観測者は観測対象と独立で“客観的”観測できるということは自明のこととして扱います。しかし生命の“生命らしさ”である主体的な振る舞いを理解しようとするならば、“自己”という主体性を考えなければならず、観測者と観測対象が非分離であり客観的な記述は自明なものではなくなります。この時に対象をどう表現すればいいのかという問題が内部観測と呼ばれる問題です。郡司さんこの「内部観測」を問題意識として長年にわたり研究されています。今回の講演では内包的記述と外延的記述の齟齬とその調停という形のこの問題に対するアプローチやもっと具体的なアメーバを用いた話をしていただきます。郡司さんの著作を読むと哲学書のような難解な印象を受けますが、問題意識としては上のように皆さんが共有しているものだと思います。そこで双方向で議論でき理解を深められるこの機会は大変貴重なのでぜひ積極的に参加してください。